

令和元年度 第1回日野町総合教育会議議事録

1. 日時：令和元年7月26日（金）15時30分～17時20分

2. 場所：日野町役場 防災センター 203会議室

3. 出席者（敬称略）

藤澤直広日野町長

日野町教育委員会：今宿綾子教育長、山田めぐみ教育委員、高橋政宏教育委員、
谷信代教育委員、西村吉弘教育委員

庶務：嶋村和典企画振興課参事、増田武司企画振興課専門員

望主昭久教育次長、柴田和英学校教育課参事、山添美実学校教育課参事、
吉澤増穂生涯学習課長、加納治夫生涯学習課参事、宇田達夫子ども支援課課長、
高浪郁子図書館長

4. 傍聴人 0人

開会 （企画振興課参事）

町長あいさつ

協議事項

（1）令和元年度日野町教育行政の重点施策について

教育長： 今年度の教育行政方針については3、4月に見ていただいているところです。それを踏まえて次年度に向けて5年間の日野町教育振興基本計画の作成についてのことに触れながら説明します。資料を見ていただき日野町教育方針が書かれています。「まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成する」を進めています。日野町教育基本目標に第3期日野町教育振興基本計画を作成するにあたり目標を柱として作成しました。これに基づいて文書化していきます。これにつきましては第2期日野町教育振興基本計画を検証して作成しています。町では第5次総合計画が終期をむかえ、第6次総合計画を作成されています。県の教育基本計画と町の総合計画を上位の計画と位置づけ作成します。目標については「日野のたから」を未来につなぐ心豊かでたくましい人づくりを引き続き掲げます。また、第3期日野町教育振興基本計画の中心としていきたい言葉が夢と志をもち、共に育ち共に生きる、活力ある日野の教育です。夢と志はとても大事です。この言葉を全面に出しながら、明るく優しく自分らしく生きる子どもというものを描いています。町全体で地域の将来を担う子どもたちを育成するのはこれまでの郷土活動の名目です。基本の柱が3つあります。柱1は「子ども一人ひとりの個性を大切に、生きる力を育む」。柱2は「社会全体で支えあい、子どもを育む」。柱3は「すべての人が学び続け、共に生きるための生涯学習の振興」。これは滋賀県の振興計画を参考にしました。各柱の下に小柱があります。柱1では学力については改めて3観点が示されています。新指導要領

の大きな3観点です。1つ目は知識、技能の取得、基礎学力の習得です。2つ目は思考力、判断力、表現力の育成です。3つ目は、最も重要なところですがもっている力を生かし学びに向かう力人間性があがってきています。みずから進んで学ぶ授業、その授業を支えるものとしてICT整備や指導員の充実を含めた教育環境の充実を入れていきたいです。特別支援教育は大事であり、対象の子どもたちも増えています。しっかりと取り組んでいく必要があります。町の課題として不登校問題、いじめ問題に力をいれていきたいです。滋賀県では学力の部分におきまして読み解く力、新しい概念が入っています。すべてを支えるものとなるものです。柱2ではこれまでの取り組みの中で子どもと地域との関係はよくなっていると感じています。郷土活動、地域の方々に学校を支援していただいているところですが、逆に地域に返していく。国、県からコミュニティスクールが義務化の動きがあり、これについてはどういう形でできるのか、できないのかを研究しなければならないと考えています。教職員の働き方改革、若手教員、新たに管理職になる人を含めて育成していくことがこれからの大きな仕事になると思います。柱3の生涯学習が今回の計画の中で大きな役割を果たしています。人生100年と言われていますが学校を終えたあとの人生が長いです。その中で家庭教育が改めて大切です。公民館や図書館においては居場所、学びの場作りとします。すでに公民館では「集う、学ぶ、つなぐ」を合言葉に取り組んでいただいています。町の施設を町民の皆さんの一層の学びの場、居場所となるところとしながら生涯学習につなげていこうと考えています。日野町の特色ある学習と学校の特殊ある活動をしっかり入れていきます。以上の内容を反映しながら計画を仕上げていきたいと思っています。

町長： 第3期日野町教育振興基本計画の策定にあたっての原案ですか。

教育次長： 策定に向けての方針案です。

町長： 教育長が言われたことで「日野のたから」教育行政においては子どもたちを育成するだけではなく、まさに子どもの教育の部分だけ突出しているバランスをかくのではないですか。確かに教育委員の仕事は学校教育、幼児教育、行政全体の学校教育、社会教育の全体違和感があります。教育行政全体計画を打ち出し生涯学習と社会教育をどのように考えるか大変むずかしいです。教育基本法に規定されるように、日本国憲法が戦後公布され自由で民主的な社会をつくるということは、教育の前進によって人間形成することによってはかるものだと位置づけられていることからすると子どもの教育だけではなく同じようにすべての人々の人間形成によって民主主義が前進していくものだと思います。単に子どもたちの学力の向上育ちだけがメイン柱ではなく教育全体として青少年、若者の教育をどう前進させていくのがこの国の民主主義の発展にとって大事だと考えます。トップ柱の3柱に「子どもたちを育成する」というのはどういうニュアンスで入っているのですか。少しバランスが悪いのではないですか。

教育長： これまでは教育は学校教育に重きをおいてきました。これからの少子高齢化の時代の中であつては学校では担えない、複雑化した家庭、学校、地域全体で子どもを育てていくという当

事者意識をもって町の子どもたちを育てようと考えます。生涯学習課、学校教育課どちらも関わりながら町の子ども達を育てていこうということが書かれています。子どもを育てるのはまず家庭が大事という観点、学校を卒業したあとも学びつづけるという観点、子どもという表現というのを無くしてもいいと考えます。気持ちの中では下のタイトルと変えています。

町長： 生涯学習、社会教育は子どもを育てるための連携手段として使うということではないですか。生涯学習、社会教育本体こそが充実強化されなければならないと考えます。子どもを育てるために公民館、親が頑張るのではなく、子どもを育てるための連携としては大事ですが、生涯学習、社会教育本体も学校教育と同じように大事であると位置づけないとバランスが崩れるので、トップの見出しの真ん中のこの見出しが出ると極めてバランスを欠くと考えます。

教育長： そのとおりです。

町長： 子どもを育てる分野で行くのはいいと思います。なぜかというかつては学校教育がメインであって、かつては社会教育分野において公民館活動も自主的活発にする地域の力があつたし、女性会、老人会、青年団にしても地域社会教育活動を支える人材と主体がありました。あえて教育委員会事務局本体が手を差し伸べなくても適切なアドバイスのもとでやっていく力がありましたが、今は以前と比べれば難しい状態となっています。そこは社会教育の観点から促進をバランスよくしていかなないと社会全体の学びや育ちが危うくなります。各種団体や地域の自治の困難さ、地域活動、文化の継承をどうしていくのかも考えていただきたいです。教育の場面においても子どもを育てる学校や就学前教育とともに社会全体を前進させるため社会教育の取り組みを両輪としていかなければならないことをこの資料を見て感じました。

教育長： お話していることが入っていますが表現の中で大きく値すべきところは直していきます。先ほどからいっていますが社会教育、生涯学習の概念はいろいろあります。社会教育というのは横の広がりであり、学校のまわりを包んでいるすべてのものと思います。生涯学習は縦の連続と思いますし、その辺のところが大事になってきます。また、一方で学校教育は大事な分野であり、すべての地域の子どもたちが集まってくる場所であり学校の役割、仕事をしっかりと果していきたいと考えます。社会教育、生涯学習は事業をするというわけではなく、どんな学びがあつて、どういう力をつけてもらうのかを考えながらすることがこれから大事になっていくのではないかと思います。そこが大きな柱だと改めて示しています。

町長： ただいまの議論を通じて教育委員のご意見、ご感想はお伺いしたいと思います。

山田委員： 町長の言われたとおり、社会教育・生涯学習も重きを置いていかなければならないと思います。私は保護者の立場で言うと学校教育に重点を置いていました。町長の言われますように、社会教育・生涯学習も大事。学校教育も大事。その気持ちでやっていかないと改めて思いました。ICTの機器を揃えていただき、子どもたちも興味を持ち授業にも励んでいるように思い

ます。滋賀県では「読み解く力」を言われていますが、大事なことであり身につけていかなければいけない力だと思います。文章や図から読み解く力と、人の表現やしぐさから読み解く力のふたつがあり、生きていくうえで必要な力であり、育てていければと思います。

町長： 学校教育と社会教育・生涯学習がボリューム的に同等と言ったのではなく、基本的な計画の立案にあたって、どちらかが手段に成り下がってはいけないと言いたかったのです。予算的に見ても、学校教育の方がたくさんの予算を使っています。

高橋委員： 第2期基本計画の成果・課題はどこにあったのか、明らかにする必要があります。それに基づき第3期を作ります。町長の思いを、大綱に入れてほしいと思います。義務教育を終えたとき、どんな力をつけておかなければならないのか、共通認識しておく必要があります。

町長： 第3期計画のスケジュールはどうですか。

教育次長： 現在各担当で、成果と課題を振り返っています。8～9月までにまとめて、10月に教育委員に提出し意見をもらい、11月に協議します。12月にパブリックコメントを出して、1月に決定版を出す予定です。

町長： 高橋委員さんの話を聞き、そのとおりだと思います。事務局で作って教育委員に意見を聞くという発想ではなく、フリートークも含めパートごとに議論やディスカッションを丁寧にしたうえで、これに特化した場を持てはどうかですか。今はチェック機能にしかなくなってなく、もっと自由活発な場にしてはどうかと思いました。

高橋委員： 第2期の成果はあります。文字化したらできます。課題も文字化したらできます。課題を解決する教育施策を打ち出すと、日野町の教育が上昇していきます。子どもたちに生きる力をつけます。算段することを、事務局でまとめていただくと見えてくるのではないかと思います。

町長： 教育委員会とは、町長部局から独立して教育委員会部局を作ったというこの国の歴史があります。政治家たる町長が、自分の好みで教育を左右するのはどうかと思います。町長としての思いや考えを述べたり議論に参加することは当然のことと思いますが、4年に1度変わる町長が、教育の根幹を振り回すよりも、地に足をつけた教育を進めていくため、教育委員会があると思います。

谷委員： 私は保護者の立場で見えてしまいます。特に小柱の特別支援教育です。年々、支援を必要とする子どもや外国籍の子どもが増えています。その子どもたちをどう育てていくのかということに興味があります。ポケットークを、あおぞら園・日野幼稚園・小学校・中学校に5台あります。今必佐幼稚園には、全く日本語の通じない3歳と4歳児がいます。言葉の通じない日本に来て

不安にしています。4月に入園し少し慣れたが言葉が話せないで戸惑っている状況です。ポケットークを入れてください。日野で育って日野の気質がわかっておられる方と、他から来られた方との温度差があります。わが子のことだけ見ていたらいいと思う方が多いように思います。よその子どもに目をかける余裕ありません。町全体で地域の子どもを見守っていこうとするなら、全体が共通認識していかないといけないと考えます。

町長： 教育委員会制度の中で、教育委員の皆さまについては、いろいろな立場の方がバランスよく委員さんになっていただきたいと思います。特別支援学級の子どもたちが増えているのは全国的な傾向です。しっかり支援すべきです。学校へ行かすのが目的でなく、その子がどう育つのが大事です。支援学級、外国人、不登校にどんな手だてを講じるのかも含め、学校だけでなく社会全体で寄り添っていかなければいけないと思います。

西村委員： 阪南大学で4月から、学生からの要望があり全ての教室を指定席としたとのことです。ICTの活用で最小の労力で最大の効果が上がればよいですが、自由を得て基本的人権を獲得してきた歴史を考えますと人から強制されて心地良いとは思いません。60年安保を生きてきた性分かもしれません。将来の日本にとってどんな人を育てていくのかを考えた時、これでよいのかと思います。成長の過程の中で自分の考えたことをしっかり持つということ、教育とはそういう事ではないかと思います。大学によりますと、10年前から僅かな教室で実施し、今回学生の要望により対象を拡大したとのことです。学生からの苦情もなく円滑に進んでいるとのことです。単に効率でAIを使うのではなく、考えるところは考えなければいけないと思います。

総合計画の策定するにあたり、住民意識調査を実施され、日野の良いところを見ますと、保育子育ては半数以上がよいと答えています。他は厳しい回答です。ひとりひとりの要求が多岐になっています。学校に設備投資していることを町民の皆さんに知っていただきたいと思います。総合教育会議で教育大綱を決めます。大津のいじめ問題が基本にあり、緊急事態の時も総合教育会議の首長がリーダーシップをとり解決に向かう制度ができました。教育委員会という独立した行政組織が政治の流れとは一線をひき、教育としてどのように取り組んでいくのか、独自の責任で決めていくのがベースにあります。現在でもその精神は変わっていないと思います。平成27年5月25日第1回総合教育会議で町長が、日野町教育振興基本計画をもって大綱とすると宣言されました。大変心強かったです。中身はこれから論議して決まっていますが、大局的な観点から町長のご指導を仰ぐこととなると考えます。

町長： どのようにしてコミュニケーション能力を持った子どもを育てていくのかを考えるべきです。自主性がないがゆえに自己主張できない青年ではいけません。柱1の「AIの情報活用能力の育成」は手段であり、ほかの5つは目的です。日野は日野の良さを確認し、自信をもってその良さを活かして生活していくことが重要です。大綱の問題はベースをしっかりし、その時々課題に対応していくことです。町長のリーダーシップを否定するものではないと思います。大綱に一定の思い入れも含めて、教育委員会で議論しながら反映させることはできると思います。町長の果たす役割は大きいのでしっかり意見を述べ、大綱にすることは大事です。基本計

画を作るにあたり、自由活発な議論をしてはどうですか。成果と課題を事務局でまとめ、事前に送って議論しましょう。

山田委員： 夏休みになり、西大路の学童に校区外から何人か来られ賑わっています。学童の建物は新しくしてもらえないですか。

町長： 西大路・南比都佐・桜谷については、スタートの規模が小さかったため補助金的にも難しく、せめて長期休暇中だけでも他地区から来てもらい運営できるという経緯があります。全県的に見ても長期休暇中だけの学童は少ないです。西大路の学童の耐震対策は問題意識しています。他にご意見なければ、終わります。